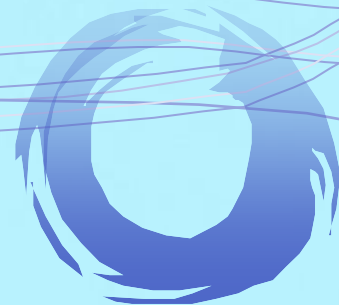


地域包括支援センター「地域ケア会議」 —協働の支援を通して—

東部保健福祉事務所登米地域事務所 成人・高齢班

○技術主幹 小川美穂, 技術副参事兼技術次長 佐藤純子
技術次長 宮城裕美子, 技術主査 後藤博音



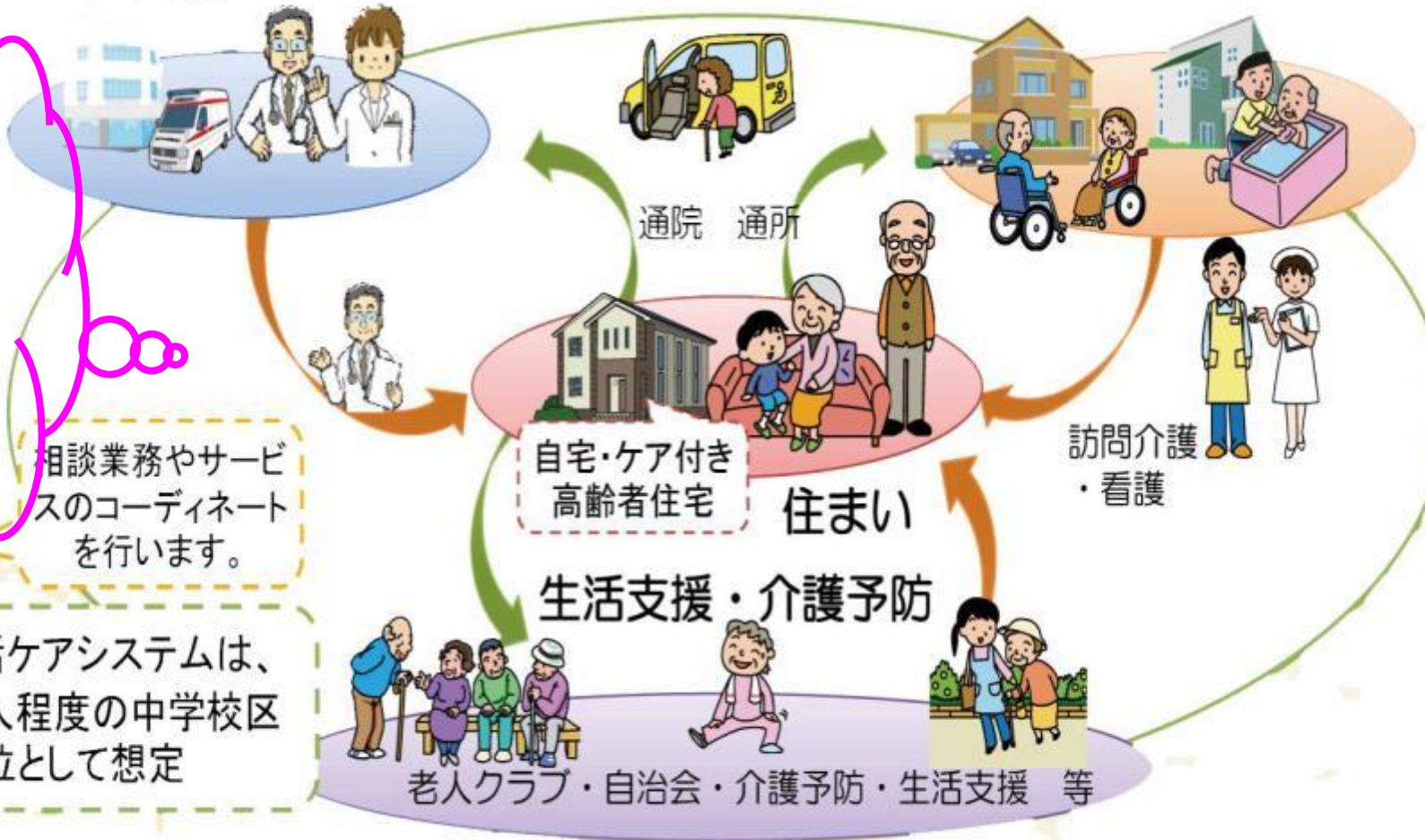
はじめに

- 地域包括ケアシステムの推進
- 地域包括支援センターのコーディネート機能の充実
- 「地域ケア会議」が効果的に展開されるよう運営を支援

地域包括ケアシステム

医療

介護



地域包括支援
センター・
ケアマネ
ジャー

相談業務やサービス
のコーディネート
を行います。

※地域包括ケアシステムは、
人口1万人程度の中学校区
を単位として想定

通院 通所

自宅・ケア付き
高齢者住宅
住まい

訪問介護
・看護

生活支援・介護予防

老人クラブ・自治会・介護予防・生活支援 等

地域包括支援センター

在宅医療・介護連携の推進

認知症施策の推進

生活支援サービスの体制整備

地域ケア会議の強化



地域の高齢者の総合相談，権利擁護や地域の支援体制づくり，介護予防の必要な援助などを行う

登米地域の状況

- 人口 82,487人（高齢化率 31.1%）
H28.3.31現在
- 平成17年4月1日登米市誕生
（9町合併10年）
- 地域包括支援センター5か所（委託型）

研修会 (H26.27)



活動内容

中田・石越地域包括支援センター 地域ケア会議

地域包括支援センター機能強化推進事業
(地域ケア会議への専門職派遣) (H28)



支援内容

- 開催・運営・開催後の振り返りの支援

- 助言者
足立区社会福祉協議会
足立区基幹地域包括支援センター
和田 忍氏



開催へ向けて

- 個別支援や事業等から感じる地域課題

- 開催趣旨・目的の共有

- 参集者の検討・出席依頼

区長，民生委員兼元気応援コンシェルジュ，
生活支援コーディネーター，社会福祉協議会，
市中田支所（保健師），市長寿介護課

区長さんから

今度は何ですか？同じような会議を、行政からいろいろ頼まれて、地域では混乱している。



「地域づくり」, 「支え合い」と言っても、これまで地域では行われてきたもの。かえって行政が、壊してきたのではないか。今更また地域づくりと言われても。

地域は一つなのに、行政からあれもこれも頼まれて。

地域は、「地域づくり行動計画書」を作成している。

これ以上市民に支え合えと言われてもなあ。

地域づくり行動計画書

石森地域づくり行動計画書

～開ろう 暮らしやすい にぎわいのある いしのもり～

・・・ 日本で一番住みたい地域をめざして ・・・



【石森の新しいセンター】新緑の森(18)



【石森登米市はつね地区の児童団長】



【石の宝珠の宝珠】



【石森ふれあい運動会】

2015年(平成27年)3月

石森コミュニティ運営協議会

- 「登米市の協働によるまちづくり指針」に基づきH27.3策定
- ワークショップを年間10回以上開催

第1回地域ケア会議

- 住民代表と協働の地域づくりを進めて行くため、地域の思いを聞く機会として開催



区長さんや民生委員さんから

地域づくりは、
元々人に言われて
するものではない。



関係者が縦割りに地域
に入ることによって地域が混
乱している。是非、横
の連携をとってもらいた
い。

実際に現場に来て、
見て、参加して欲
しい。

みんな同じ方向を
向いていることを
確認できればすす
めるのは大変なこと
ではない。

次回開催へ向けて

- 地区の活動に参加し現場の声を聞く
「地域づくり実践プロジェクト会議」
「ミニデイサービス」 など
- 情報共有するための資料の作成
一次予防・二次予防・健康づくりに
関する年間事業一覧表 など



第2回地域ケア会議

- 関係者（地域包括支援センター，支所，社協）で互いの事業や地域課題について情報共有



次回開催へ向けて

- 検討内容の見える化
- 成果を関係者や住民にフィードバック



第3回地域ケア会議

- テーマ 「関係者も繋がろう！
～高齢者が、この町に住んでよかったと
思えるように～」
- 関係者が協働で
すすめる内容
について検討



参加者から



それぞれが地区の「強み」を把握している。協働しながらすすめたい。

お互い近くにいても知らなかったことが多い、それを繋いでいけたらいいものが出来てくる。定期的に行えば。

個別の支援の時にも関係者が集まって、共有できたら。

支援で意識したこと①

- 地域に出向き住民や関係者の話を丁寧に聞く
- 地域課題のアセスメント
地域の強みや協働者の把握
- 目的，目指すべき方向性の共有



支援で意識したこと②

- 優先順位の決定
実現可能で具体的な取り組みから
- 検討内容の見える化
- 成果を関係者や住民にフィードバック



支援で意識したこと③

- 1回毎に会議を評価し改善
→合意形成の積み重ね
(これらのプロセスを協働者と大切に)
→スモールステップ(意図的に段階的に)
→参加して良かったと思えるように
(継続できるように)
- ミクロ(個別事例)から
マクロ(地域全体)の視点へ
- 市との連携



考 察

- 関係者の顔の見える関係ができ、協働で地域づくりをすすめていくチームへと変容。
- 地区の課題から市全体の課題検討への広がり。
- 地域包括支援センターが今後定例で会議を開催予定。

おわりに

- 地域包括ケアシステムを推進するための手段として、「地域ケア会議」のような場は重要。
- 様々な立場の方が横断的に協働・連携することが大切。
- 「実感できる成果」に繋がる第1歩。

ご静聴ありがとうございました



石ノ森章太郎ふるさと記念館にて